

**黒滝村地域防災計画
見直しのための
村民アンケート
調査報告書**

**平成27年4月
黒 滝 村**

目 次

〔1〕 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査期間	1
4. 調査対象者と回収結果	1
〔2〕 調査結果	2
1. 回答者の属性	2
2. 地震対策について	4
3. 風水害対策について	5
4. 防災全般について	7
5. まとめ	14

〔 1 〕 調査概要

1. 調査目的

本調査は、「黒滝村地域防災計画」の見直しにあたり、村民の状況・意向等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

2. 調査方法

調査目的を踏まえ実施しました。調査票の配布・回収は、郵送により実施しました。

3. 調査期間

平成 26 年 12 月

4. 調査対象者と回収結果

配布数	回収数	回収率
384 票	226 票	58.9%

(注) 本文中のパーセント表記については、整数処理を行い、小数点以下を四捨五入して表記しています。

〔 2 〕 調査結果

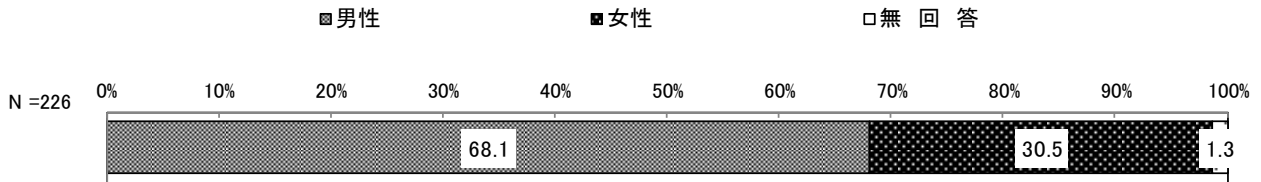
1. 回答者の属性

問1 性別

あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

「男性」が68%、「女性」が31%となっている。

問1 性別

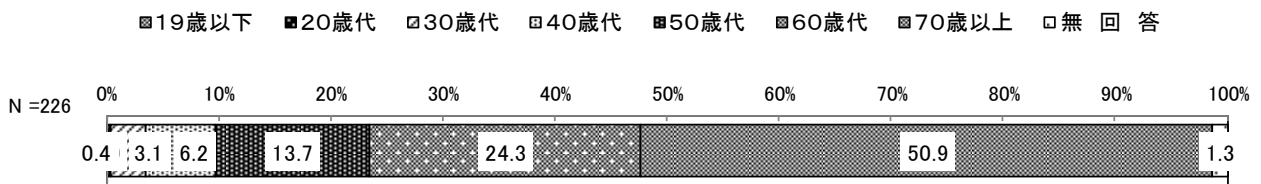


問2 年齢

あなたの年齢をお答えください。(〇は1つ)

「70歳以上」が51%、次いで「60歳代」が24%、「50歳代」が14%となっている。

問2 年齢

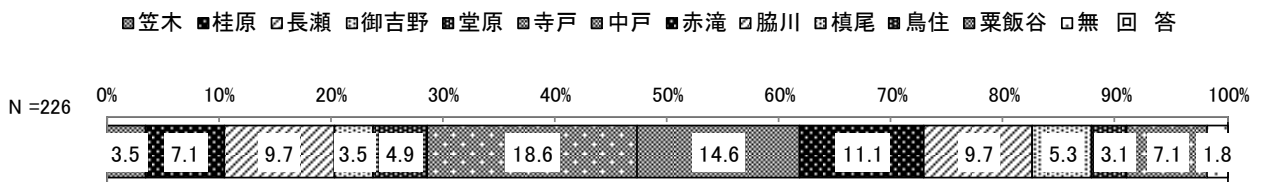


問3 住まいの地域

あなたのお住まいの地域(字名)をお答えください。(〇は1つ)

「寺戸」が19%、次いで「中戸」が15%、「赤滝」が11%となっている。

問3 住まいの地域

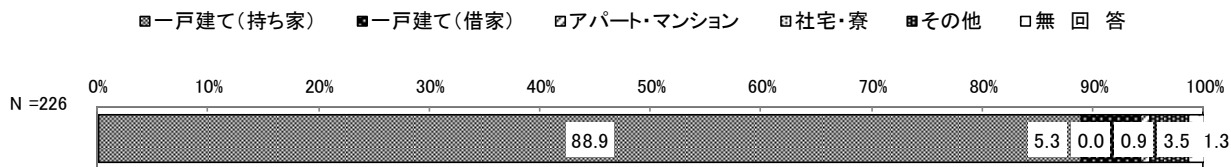


問4 住まい（住居形態）は次のどれか

あなたのお住まい（住居形態）は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

「一戸建て（持ち家）」が89%、次いで「一戸建て（借家）」が5%、「アパート・マンション」が1%となっている。

問4 住まい（住居形態）は次のどれか

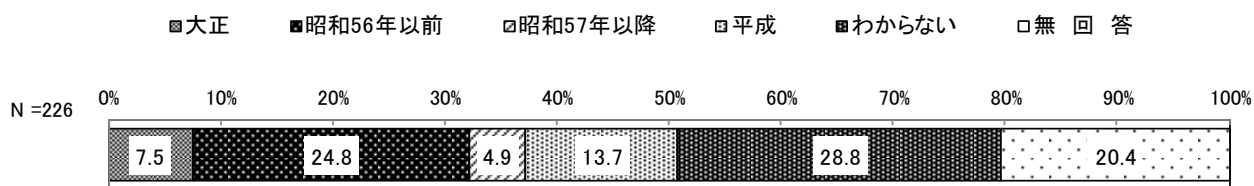


問5 住まいは何年頃に建てられたか

あなたのお住まいは、何年に建てられたものですか。（○は1つ）

「わからない」が29%、次いで「昭和56年以前」が25%、「平成」が14%となっている。

問5 住まいは何年頃に建てられたか



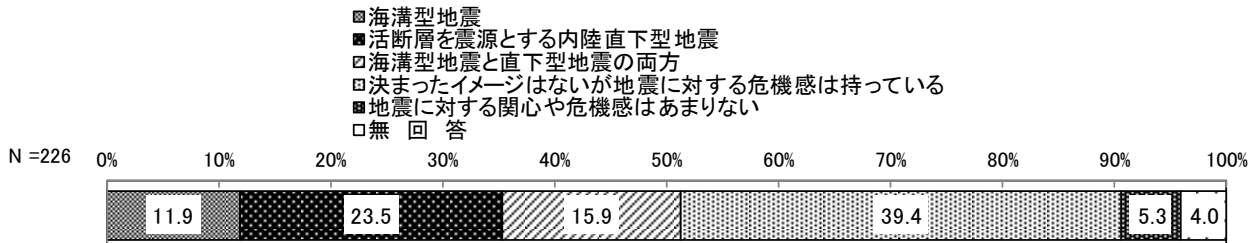
2. 地震対策について

問6 地震と聞いて危機感を持つのはどんな地震か

あなたが地震と聞いてイメージし、危機感を持つのはどのような地震ですか。(〇は1つ)

「決まったイメージはないが地震に対する危機感を持っている」が39%、次いで「活断層を震源とする内陸直下型地震」が24%、「海溝型地震と直下型地震の両方」が16%となっている。

問6 地震と聞いて危機感を持つのはどんな地震か



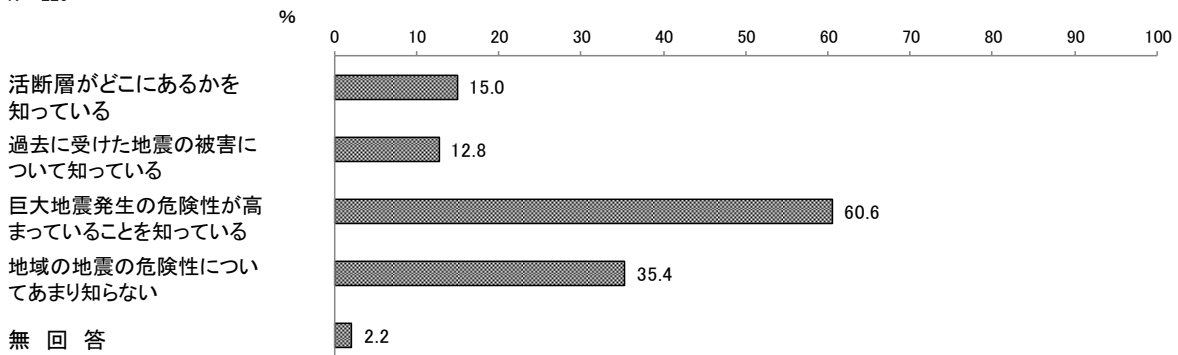
問7 地域の地震の危険性について知っていること(すべて)

あなたがお住まいの地域の地震の危険性についてどの程度知っていますか。(いくつでも〇)

「巨大地震発生の危険性が高まっていることを知っている」が61%、次いで「地域の地震の危険性についてあまり知らない」が35%、「活断層がどこにあるかを知っている」が15%となっている。

問7 地域の地震の危険性について知っていること(すべて)

N = 226

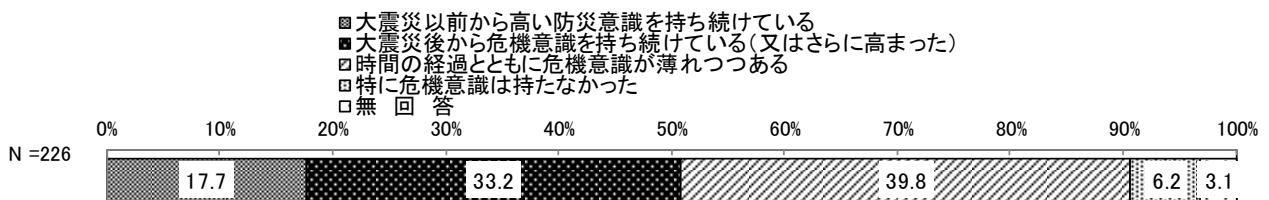


問8 東日本大震災発生時と比べて防災意識に変化はあるか

東日本大震災の発生から3年半が経過しました。発生時と比べてあなたの防災意識に変化がありますか。(〇は1つ)

「時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」が40%、次いで「大震災後から危機意識を持ち続けている(又はさらに高まった)」が33%、「大震災以前から高い防災意識を持ち続けている」が18%となっている。

問8 東日本大震災発生時と比べて防災意識に変化はあるか



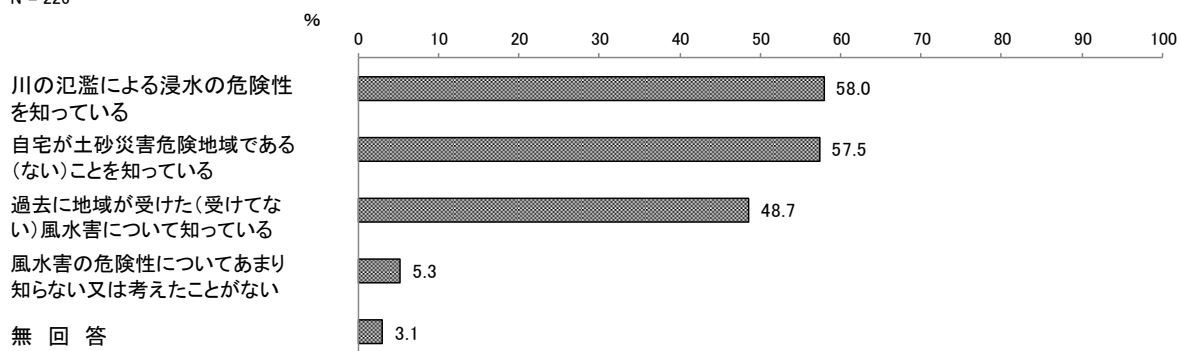
3. 風水害対策について

問9 地域の風水害の危険性について知っていること（すべて）

あなたがお住まいの地域の風水害や土砂災害（川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべりなど）の危険性についてどの程度知っていますか。（いくつでも○）

「川の氾濫による浸水の危険性を知っている」「自宅が土砂災害危険地域である（ない）ことを知っている」がともに58%、次いで「過去に地域が受けた（受けてない）風水害について知っている」が49%となっている。

問9 地域の風水害の危険性について知っていること(すべて)
N = 226

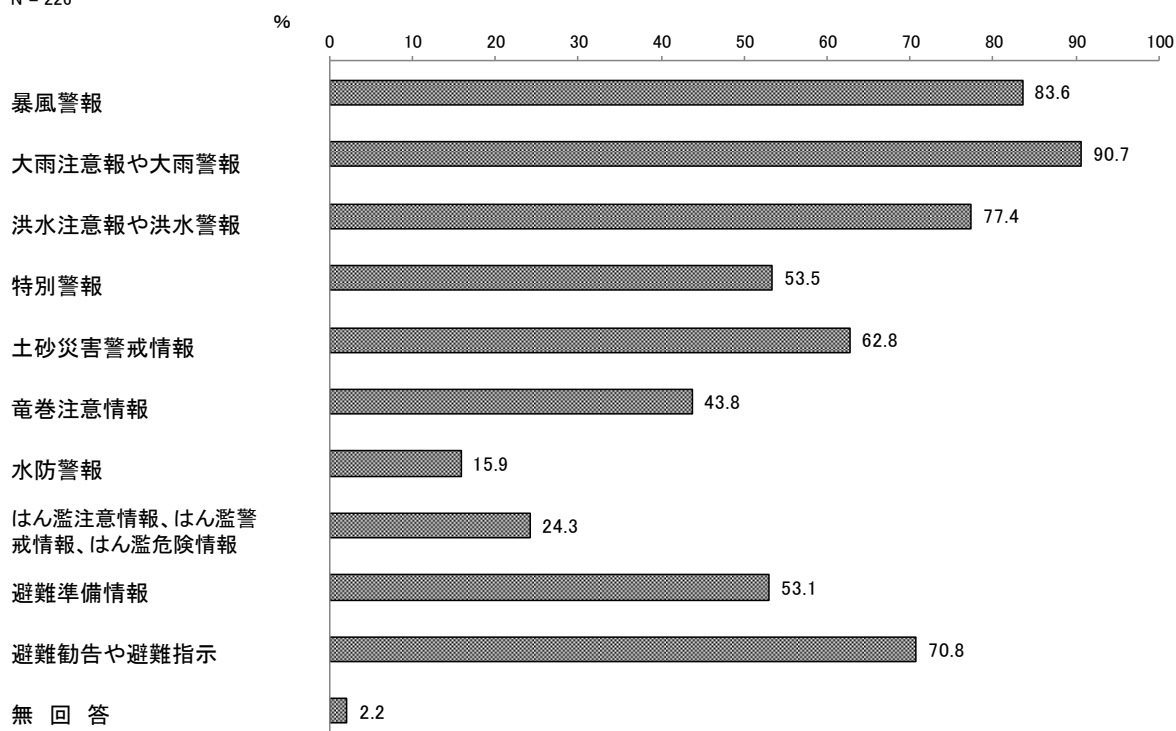


問10 既に知っている防災情報（すべて）

風水害や土砂災害等の災害が発生する危険性が高くなったときに出る防災情報のうち、あなたが既にご存知の情報はありますか。（いくつでも○）

「大雨注意報や大雨警報」が91%、次いで「暴風警報」が84%、「洪水注意報や洪水警報」が77%となっている。

問10 既に知っている防災情報(すべて)
N = 226

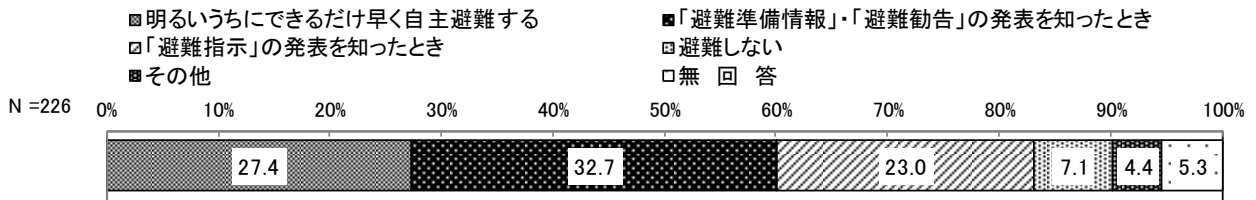


問 11 台風や集中豪雨の時にどの段階で避難するか

あなたは、台風や集中豪雨の時に次のどの段階で避難しますか。(〇は1つ)

「避難準備情報」・「避難勧告」の発表を知ったとき」が 33%、次いで「明るいうちにできるだけ早く自主避難する」が 27%、「避難指示」の発表を知ったとき」が 23%となっている。

問11 台風や集中豪雨の時にどの段階で避難するか



4. 防災全般について

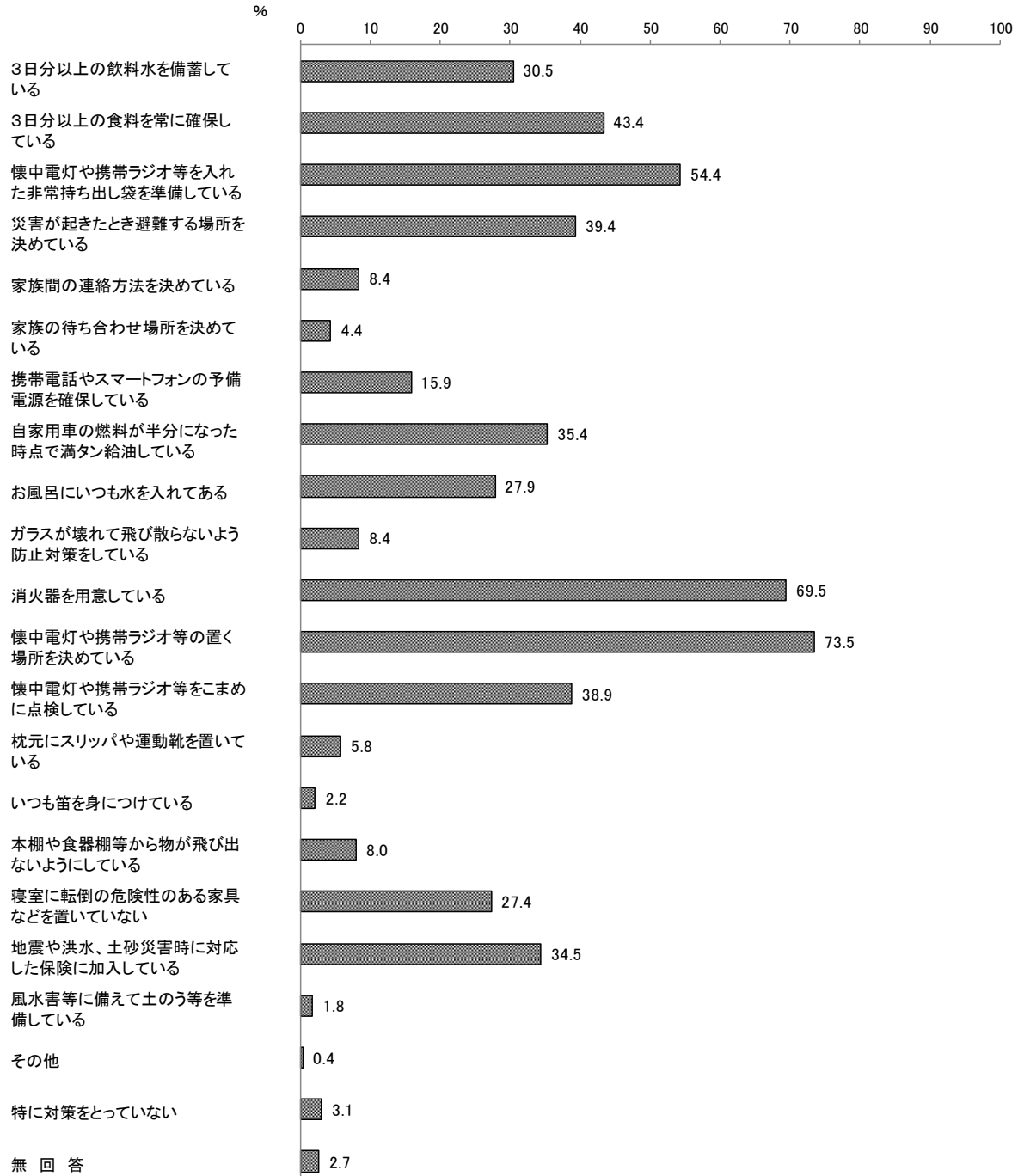
問 12 災害に備えてどんな防災対策を行っているか（すべて）

あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。（いくつでも○）

「懐中電灯や携帯ラジオ等の置く場所を決めている」が74%、次いで「消火器を用意している」が70%、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が54%となっている。

問12 災害に備えてどんな防災対策を行っているか(すべて)

N = 226

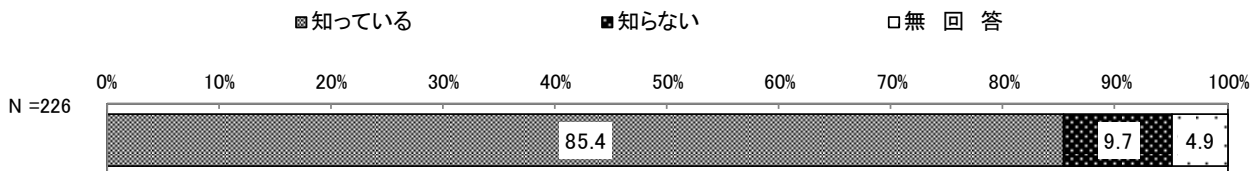


問 13 自宅付近の指定避難所がどこにあるか知っているか

あなたは、自宅付近の指定避難所がどこにあるかご存じですか。(〇は1つ)

「知っている」が85%、「知らない」が10%となっている。

問13 自宅付近の指定避難所がどこにあるか知っているか



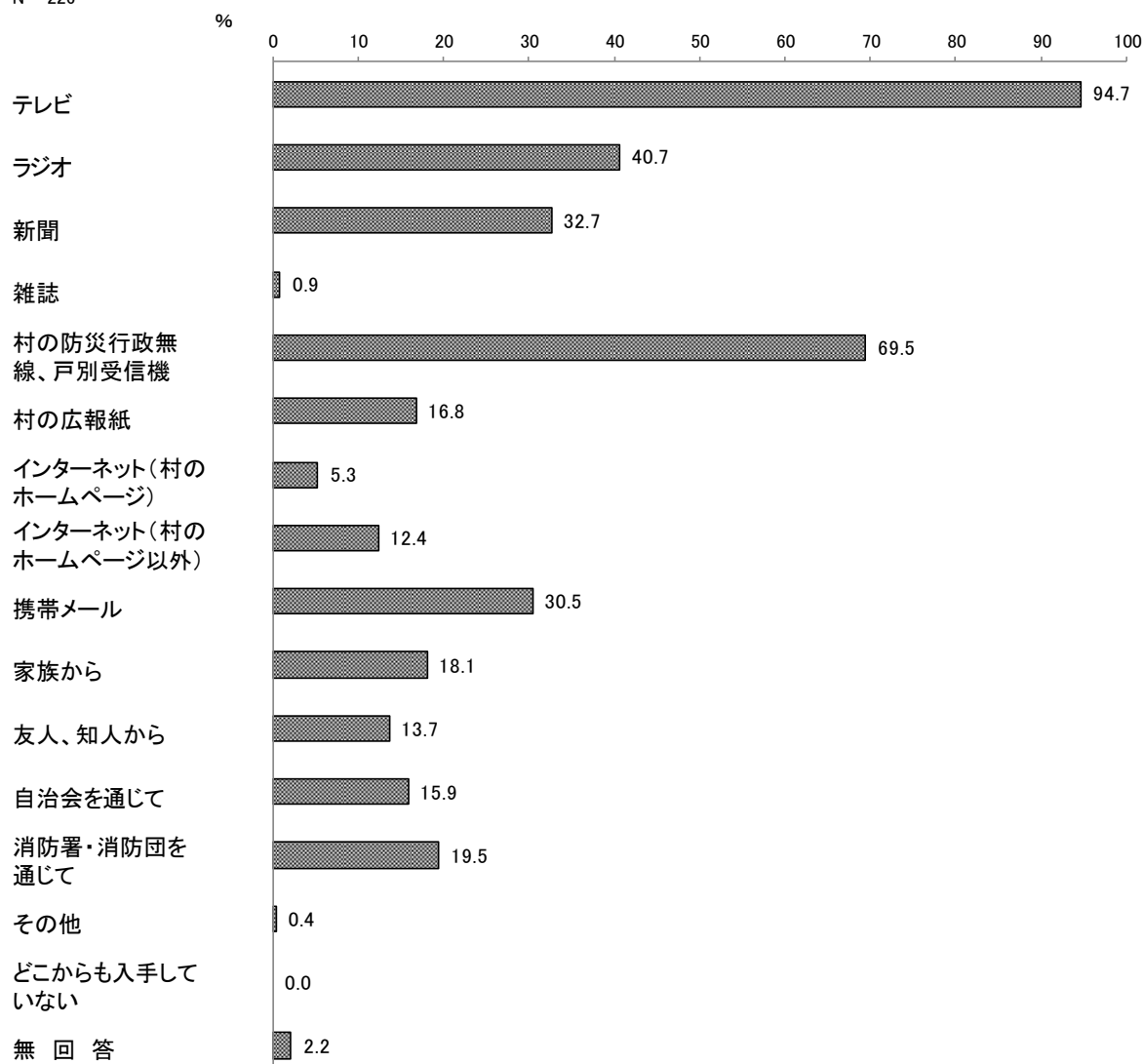
問 14 気象や災害の情報をどこから入手しているか (すべて)

あなたは普段、気象や災害についての情報をどこから入手していますか。(いくつでも〇)

「テレビ」が95%、次いで「村の防災行政無線、戸別受信機」が70%、「ラジオ」が41%となっている。

問14 気象や災害の情報をどこから入手しているか(すべて)

N = 226



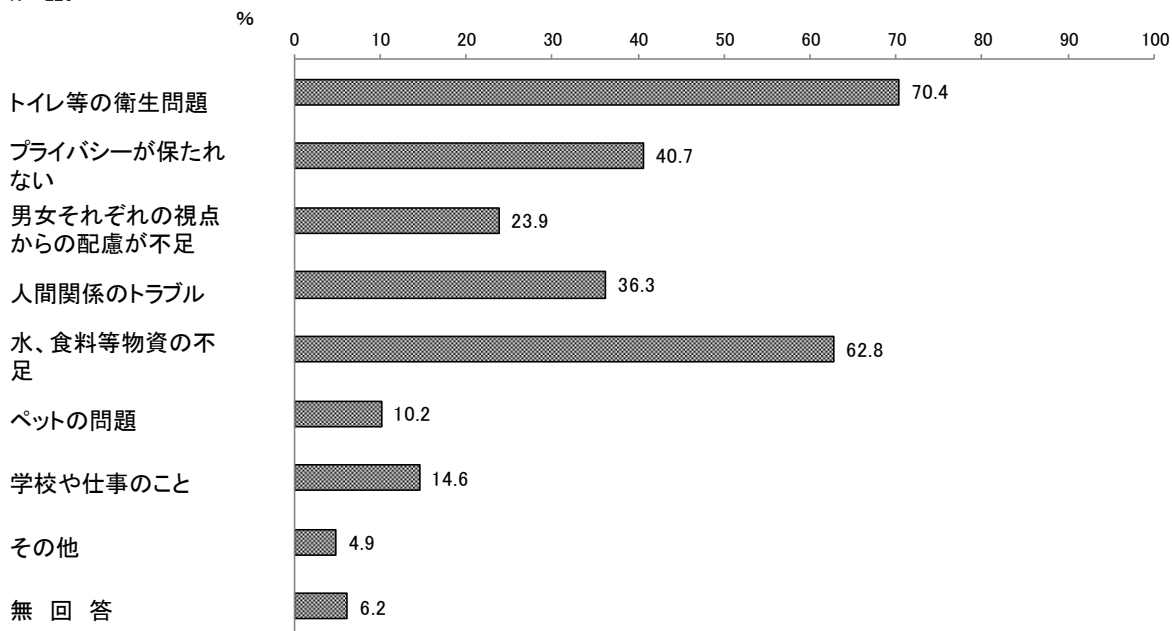
問 15 避難生活が長期化した場合不安に思うことは何か（すべて）

あなたは、避難生活が長期化するとした場合特に不安に思うことは何ですか。（いくつでも○）

「トイレ等の衛生問題」が70%、次いで「水、食料等物資の不足」が63%、「プライバシーが保たれない」が41%となっている。

問15 避難生活が長期化した場合不安に思うこと(すべて)

N = 226

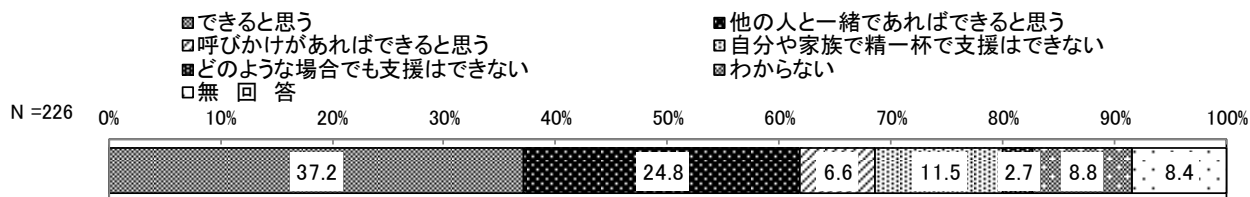


問 16 災害時に高齢者などを誘導・支援しながら避難できるか

あなたは災害時に避難する必要がある場合、近所の高齢者や障がいのある方などを誘導・支援しながら避難することができますか。（○は1つ）

「できると思う」が37%、次いで「他の人と一緒にあればできると思う」が25%、「自分や家族で精一杯で支援はできない」が12%となっている。

問16 災害時に高齢者等を誘導・支援しながら避難できるか

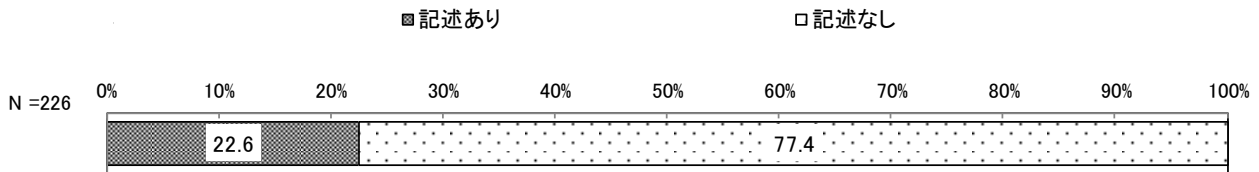


問 17 自由意見

防災についてのご意見があれば記入をお願いします

「記述あり」が23%、「記述なし」が77%となっている。

問17 自由意見



※便宜上、記入内容を大別し分類した。記入内容は原文を基本としているが、固有名詞が含まれている場合や、長文の場合は一部省略した。また、一つの回答が複数の内容に渡る場合は複数回答として、それぞれの項目へ分類した。

防災施策全般 記入内容（6件）

- ・日頃から飲水（飲料水）の確保しておく必要があります。また、垣内道の整備点検の実施をお願いします。私の地域ではどこの避難所が安全か考えにくい点があるとします。近隣町村との連携が必要だと思います（物資等の助け合い、輸送）。
- ・自分が年だから心配です。
- ・昔の様に消防団又は地区の元気な方が居てほしい。地区以外の方でもいいのでお願いします。
- ・おだやかな時にあれもこれもと〇を付けたが、夜とか急に水害、山の木が倒れる時、平素から思っ
て居る事は一つ出来ないと思う。
災害がおこれば消防団等皆さんの助けが、どんなにか有難いと思います。
- ・防災計画の見直しの話が出てから3～4年経過しているのではないだろうか？
- ・東日本大震災では原子力発電所が爆発し、避難や復興に大きな問題が出てくるのが明らかになりました。防災の上でも原子力発電はやめるべきだと思います。

過去の災害事例について 記入内容(3件)

- ・70年前12月7日の南海トラフ地震では黒滝はどのような状態でしたか？
- ・平成23年の災害時に公務災害の保証の有る者が災害現場に出て行く者であって、公務災害の保証の無い者が行く者では無いと言う事を耳にしたけれども、実際その方には身の危険性を感じて現場に近寄らなかったのも目の当りにした。
- ・55年前の古い話になるが、昭和34（1959）年、黒滝村は未曾有の大災害を経験した（伊勢湾台風）。特に槇尾は山崩れで家屋が押し潰され、8名の人命が失われた。
（隣の川上村では、72名の人命が失われたと記録されている…川上村役場）
当時、脇川区から槇尾区への道路は寸断され、槇尾は陸の孤島となった。
この災害の記録が役場に保存されていると思うが、黒滝村災害の対策の貴重な資料であると思われる。今一度記録の分析をしておく必要があると思う（当時とは多少の環境変化はあると思うが）。
黒滝村でも特に槇尾は山峡の地で、常に増水時には不安を感じている。対岸の山は、急傾斜地で狭い所が多い。仮に山崩れが発生し、水が堰き止められると逃げ場のない槇尾の住民は大変なことになる。このような環境問題を抜本的に改善するには、膨大な課題があると思うが、この機会に根本的な避難と救出対策が必要と考える。

防災意識について 記入内容（6件）

- ・①隣近所で日ごろからお互いに訪ね合い、連絡して交流を深めておくこと。
- ・②話題として自然に取り上げられやすいように努める。
- ・③一人ひとりが防災意識を高められる環境づくりを行う。
- ・④家族で防災について、守りやすい項目で、最も大切なことを確認しておく。
- ・⑤知識理解で終わることなく、常に行動できる態度と習慣を身に付ける。
- ・常に防災意識を持っている必要がある。
- ・防災の意識は常に持つておく必要を強く感じながら、でもいざとなったらちゃんと出来るかは判りません。一人暮らしで夜何かあったらどうしようという不安はあります。
- ・いつも近所の人との確認と思う。もっと黒滝テレビの放送内容を色々と考えて流してほしい。プライバシーは別として、人が亡くなった事や村の事をもっと詳しく放送してほしい。何のためのテレビか分からない。よろしくお願いします。
- ・可能であれば、現実的にかつ歴史的に自分の家屋がどんな場所に立地するのか知っておきたいと思います。山が迫っているので土砂崩れの危険が多いのはわかりますが、地震の要因について可能性を教えて頂けたらと思います。
- ・80年間安全安心で生かされてきましたため、防災については考えておりません。いけないとは思っておりますが……。

防災対策について 記入内容（17件）

- ・家の崖から1年に3～4回、大小にかかわらず石が落ちてきて壁が破損します。
- ・家が古いのでこわれる覚悟はしています。
- ・一番怖いのは予知がない地震ですが、家の耐震も心配です。
- ・災害がおこってから復旧工事に追われるように思えてなりません。防災の字のとおり、災害を防止する工事を広範囲に積極的にすすめるべきではないでしょうか。専門家による綿密な調査、それに基づく防災工事が住民の目で確認でき、安心して住める村づくりに一層の努力を期待し切望しています。
- ・住宅の東側の水路ですが、3年ほど前の大雨の時2mぐらい吹き出しておりました。その出口を鉄板でふさいでいますが、大丈夫なのか心配しています。
- ・家の裏がすぐ山になっており、崩れやすい地盤なので心配である。
- ・川の砂を早く取って下さい。水が来ると危険性があり、家が流れる心配がある。
- ・家裏の河川の堆積土砂により河川の水位が上がり、家屋への浸水が心配である。河川に生えた木が大木化している。倒木した場合、川をせき止める恐れがないのか。
- ・インフラの対応が大事である。
- ・この度の調査は本当に有難い事で嬉しく思います。調査結果纏まればよく見当され、良きご指導のほどお願い致します。扨て現在は時代の変遷により、家庭でオール電化が増えてまいり、尚災害と成ると停電が生じ誰氏も困窮する次第です。我が村は、山村だけに立木の倒壊で停電に繋がる事故が多くあります。危険場所を調査され、山主と交渉して戴き、解消に努めて戴きたいと思います。
- ・要望をしてお願ひしている所を早くしてほしいと思います。
- ・前日、前々日それ以前の川底にある砂利等の除去が出来ていない。自宅裏の川からせりあがった石垣崩壊の危険への不安（何度役場に言っても取りあってももらえない）。伊勢湾台風・ジェーン台風の時に浸水した（床上・床下）事が記憶としてよみがえり、不安である。
- ・山の木（家の近い所の木）が心配である。

- ・昭和 34 年の伊勢湾台風の時（4 月に倉庫、住宅を建てました）土地もろとも流れました。その後 15～16 年ほどして川の方をやっと擁壁をしてくれました。地区では最後の工事でした。家の右側の道の石垣も崩れています。議員さんも 2 人～3 人見てはくれましたが知らん顔です。いつかは車も走れません。村道とは言っても、人が住んでいる集落です。良く考えて下さっても良いと思う。
- ・腹模透析をしているので、災害時電源の確保透析液の喪失等の不安がある。
- ・山の乱開発（山道の取付）はやめてほしい。自然災害の元になる。現に山の横の谷川の形がどこでも変わってきて、山が崩れてきている様に思う。
- ・私の家の裏は川です。先日、大雨で川に砂が溜り、川の高さが 1 米程上り、今後の雨で川の水が増えれば水害の心配です。一日も早く川の砂を揚げて昔の様にしてほしい。

避難情報や避難方法について 記入内容（16 件）

- ・各地区ごとの避難訓練の実施が必要だと思います。
- ・災害の内容により対応も変わるので、防災計画においても考えて欲しいです。
- ・当地において、仮に避難準備情報が流れても、自分は自分の家は大丈夫だと思い、避難する行動に乏しいのが現実である。
- ・慌てず冷静に家族とよく相談して行動する。忘れ物の無い様に、ガス、電源を切り、玄関の鍵を掛けて出る。
- ・緊急時には、長男にすぐ帰って来てもらい、連れてもらいます。老人ですので不安はあります。
- ・自分が高齢であるため、災害時どれだけ誘導、支援出来るか不安です。自宅に帰ってくるのが精一杯だと思う。
- ・黒滝では少子高齢化が進んでいます。中年層が少ない中で今後風水害が起こった時、各大字でどの様に避難誘導するかについて、ルール作りが必要ではないでしょうか。幸い今までそんな事態は発生していませんが、今後起こり得る可能性はあると思います。是非役場の方で安全に素早く避難誘導できる方策を立て、各大字に徹底するような取り組みを考えて下さい。そして各大字に下ろし、各地区で高齢者が安心して過ごせる様な地域作りを考えて下さい。
- ・防災無線は、速やかに何度もお願いします。
- ・行政が行う避難指示等の判断については、所謂当たりはずれに関係なく、批判的なことは考えないつもりでいる。
- ・一人暮らしですので台風の時、子供の所へ避難しますが、土日になるとふれあいバスが休みですので困って居ます。
- ・耳が聞こえないので、停電になると情報が入ってこないのが不安になります。
- 1. 各地区毎に避難演習を実施されない。
- 2. 伊勢湾台風の時、槇尾地区で 8 人の死者、山津波等々の大災害の生じた事例等をもっともっと教育すべきです。
- ・できれば雨量の発表もお願いしたい。
- ・幹部、役職の人達が先導切ってすばやく現場を把握して、正確な情報を伝えて頂く事を願う。
- ・最近の気象状況、地震等の状況から出来るだけ早く整備して村民に周知することが望ましい。
- ・今現在消防の活動中なので問 16 に関して一番大きな問題である。なぜなら警戒情報が出た時点で、その家の現場に居ない事から近所の高齢者の支援がとても不安である。よって、区の関係者に頼らざるを得ない。多重災害が起こった場合の、消防活動の整備をお願いしたい。

避難場所について 記入内容（7件）

- ・問 11 の質問に無回答の理由について
避難所といえば常に地区の集会所などを指定しているが、果たしてその場所なり建物の安全性を実際に検証した上で指定しているのか大変疑問に思う。
行政として避難所を指定するならそれなりの調査をして、安全な場所なり建物を指定すべきだと思う。
- ・災害の内容により避難する場所等が変わる。避難場所では水害時には危険で、大雨により倒壊の危険性もあると思います（場所によります）
- ・私の区（いこいの家）に避難するようになって居ますが、（山崩れ）の場合、区全部は難しいと思います。
- ・指定避難場所がどこであるか、各大字で明記し、行政が通達する必要がある。
- ・問 15 での避難生活の長期化するとした場合ですが、いろいろな“不都合”は当たり前だと思います。皆がお互い様と思うようになれば団体生活も悪くないかも。
- ・地域の避難所が、災害時に安全であるのか検討していただきたい。
- ・もし、大風や地震に直面したら何処に避難するべきでしょうか。避難する所がない様に思います。最悪の場合を考えると不安になります。官庁も村民も早急に少しでも災害を少なくする方法を考えなければなりません。私も考えます。皆様も考えて下さい。

5. まとめ

調査結果の主な回答について、下記により抽出し、まとめとします。

○回答者の属性について

68%が男性であり、また、51%が70歳以上である。

○地震対策について

61%が巨大地震発生の危険性が高まっていることを知っており、また、51%が東日本大震災の発生以前又は以後から高い危機意識を持ち続けている。

○風水害対策について

58%が川の氾濫による浸水の危険性を知っており、57%が土砂災害危険地域であることを知っている。

ただし、避難の段階については回答が分散し、多い順で「避難準備情報」・「避難勧告」の発表を知ったときが33%、次いで「明るいうちにできるだけ早く自主避難する」が27%、「避難指示」の発表を知ったときが23%となっている。

○防災全般について

各家庭の防災対策として、「懐中電灯や携帯ラジオ等の置く場所を決めている」、「消火器を用意している」、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」を過半数以上が回答している。

また、避難生活が長期化した場合の不安点として、「トイレ等の衛生問題」、「水、食料等物資の不足」を過半数以上が回答している。

また、災害時の高齢者等の避難支援について、62%が「できると思う」又は「他の人と一緒にあればできると思う」と回答している。

○自由意見について

51人から延べ55件の回答が寄せられた。大別すると、「防災対策について」、「避難情報や避難方法について」の記述が過半数を占めている。